

日病薬の最近の動き(37)

経理部報告

経理部
部長 加賀谷 肇

はじめに

平成18年4月より新執行部の体制となり、伊賀立二新会長の下に(社)日本病院薬剤師会(以下、日病薬)としての課題の1つである財務の見直しが運営の大きな柱となった。

門林宗男担当副会長とも協議し、その具体的対応の1つとして、経理部門の強化策として副部長を配置することになり、佐藤 透経理副部長が就任した。

また、事務局内においても業務担当者の配置換えが行われ、経理部門の担当者も一部人事異動が行われた。従来は、事務局の経理業務点検として、伝票・書類・帳簿の毎月の点検や収支報告は担当者、主任、事務局長を経て経理部長が点検を行っていたが、今年度より経理副部長、経理部長の2人体制で最終チェックを行うことになり、迅速性とチェック機構が充実した。

財務特別委員会の設置について

課題となっている日病薬の財務の安定化を図る目的で財務特別委員会が設置され、門林宗男(担当副会長)、加賀谷肇(委員長)、赤瀬朋秀(副委員長)、明石貴雄、北田光一(委員)、磯崎貞夫(臨時委員・監事)が委員会メンバーとして当会の財務上の問題点等について討議・検討を行っている。

財務および事務局に関する指摘事項が監事や委員会の検討のなかから抽出され、以下の事項が検討対象となった。

- (1) がん専門薬剤師研修事業による補正予算について
- (2) 支出抑制策について

- ・事務局経費の削減
- ・IT化を推進し、会議および紙媒体による資料の電子化推進による人件費、費用の削減を図る準備を模索・検討する
- ・Net会議、TV会議システム導入を検討し、会議費の節減を図る
- ・旅費規程の見直しを行う
- ・福利厚生費の節減を図る
- ・その他

今後も定期的に会議を開催し、継続して財務の見直しを検討していく予定である。

組織・運営のあり方検討特別委員会の答申を受けて

伊賀立二会長より日病薬の運営等について問題提起があり、理事会にて検討の結果「組織・運営のあり方検討特別委員会」が立ち上げられ、内野克喜委員長との連携の下に事務局機能の改善を検討することになった。経理部として以下の事項を検討している。

- (1) 支出の削減
- (2) 事務局経費の削減
- (3) 会議費の削減
- (4) 会計処理の見直し

これらについても、経理部として「入るを増やして、出るを抑える」をモットーに、財務の見直しを行っている。

平成18年度予算とその補正および運用について

今年度より、がん専門薬剤師研修事業に関する研修事業費が1億1,491万3,000円国庫補助金として付けられた。各研修施設への研修助成金が1人あたり20万円で決定し、その内訳としては、研修者は受益者負担金として5万円、日病薬の補助金が15万円となり、理事会で承認された。厚生労働省の研修受講者目標数は300人としており、総額6,000万円の補正予算が必要となり、臨時代議員会の議を経て承認された。

平成18年度地方連絡協議会、第36回通常総会、通常代議員会

定例の全国レベルの日病薬会務報告に関わる経理関連資料の作成並びに点検を行い、会議の承認を得た。

まとめ

日病薬としてさらに活発な会務活動を推進するためには、健全な財務基盤が必須である。各委員会の協力・理解の下、削減できる経費は削減していただき、会議もIT技術を取り入れた予算措置を次年度は考えている。会員の皆様にも十分に納得のいく会務の運営基盤を確立していくため、経理部としてさらに努力する所存である。